













環境への配慮

◆「脱炭素 | 目標達成に向けた進捗状況

当社は「大地への愛、人間への愛」をスローガンとして掲げ、 建設業の本来の役割である自然との共生を図りながら、生活 環境を豊かにしていくという今まで当たり前に続けてきたこと を更に強化し、進めてまいりました。近年、世界的な解決課題 として顕在化している気候変動をはじめとする環境問題への 対応として、CO2(二酸化炭素)をはじめとする温室効果ガス の排出量削減を目指す「脱炭素化」が建設業においても重要な 経営課題となっています。当社は2021年、脱炭素の全社目標 として、2030年度に施工段階におけるCO2排出量の40%削 減※1、さらに2050年度にCO2排出実質ゼロの達成を目指すこ とを掲げました。

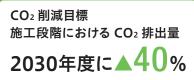
目標設定後の2年度目である2022年度は、施工高1億円 あたりのCO2排出量は2021年度の18.20tから15.80t^{※2}と 2.40tの減少となりました。

なお、工種によりCO2排出量の多寡には大きな差があるた め、当社の建設事業におけるCO2原単位排出量はその時点で 施工中の手持ち工事の工種構成等の要素により大きく変動し ます。

当社は引き続き、施工時の工夫や技術開発など様々な取り 組みを通して「脱炭素化」を実現する具体策にスピードを上げ て取り組んでまいります。

※1 2012年度から2014年度の3年度平均値対比。目標値は施工高1億円あたりの排出量(原単位)で設定。 ※2 日本建設業連合会の定める算出基準で計算。





※施工高1億円あたりの排出量(原単位)

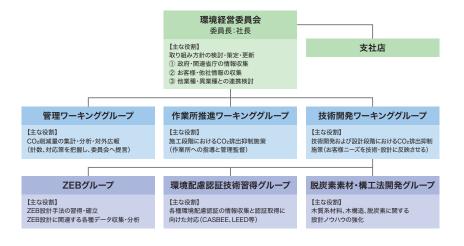
CO2排出量推移と削減目標



◆ 社長直轄の「環境経営委員会 |

「脱炭素化」に向けた目標達成のため、 当社では社内に社長を委員長とする「環境 経営委員会」を設置し、傘下の各ワーキン ググループにて脱炭素化に向けた取り組み を組織横断で進めています。

2022年度には計7回の「環境経営委員 会」を開催し、委員長である社長の臨席の もと、各部門の目標達成に向けた進捗状況 の報告や課題の洗い出し、脱炭素化に関連 した技術開発や関連する法令・認証制度等 についての情報共有を行いました。











環境への配慮

◆工事で使用する電力に「CO2フリー電力」を導入

当社では複数の事業者から「CO2フリー電力」を調達して おり、全国の土木・建築の作業所で導入を推進しています。

当社はエネサーブ株式会社と仮設電気供給に関する基本 契約を締結しており、作業所で使用する電力に関しては原則、 実質CO2排出係数がゼロの「CO2フリー電力|を導入してい ます。エネサーブ株式会社はトラッキング付非化石証書を用 いて、再生可能エネルギー100%の電気を供給するものです。 2022年度以降着工の建築工事に関しては、導入可能な

当社では今後もさらに再生エネルギーの導入拡大等の取り 組みを通じて、施工段階におけるCO2排出量の削減を図って まいります。

作業所において「CO2フリー電力」を100%導入しています。



◆ ZEBの実績拡大に向けた取り組み

消費エネルギーと生産エネルギー の相殺により、実質的なエネルギー 消費量がゼロとなる建物「ZEB(ネッ ト・ゼロ・エネルギー・ビル)」が注目 を集めています。当社では2022年度 PLANNER 末までに、2件のZEB認証取得物件



(エネルギー消費量正味100%以上削減)と2件のZEB Ready認証取得物件(正味50%以上削減)を竣工させ ており、現在設計中・施工中の物件についてもさらなる 認証取得を計画しています。

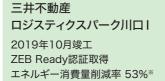
当社は、ZEBの導入を検討されているお客様に対し て、ZEB実現に向けたプランニングを実施できる認証 制度「ZEBプランナー」の認証を取得しています。ZEB プランナーは「ZEB設計ガイドライン」や「ZEBや省エネ 建築物を設計するための技術や設計知見」を活用し、 一般に向けて広くZEB実現に向けた相談窓口を有し、 業務支援(建築設計、設備設計、設計施工、省工ネ設計) を行い、その活動を公表する事業者です。環境省およ び経済産業省が実施しているZEBへの補助金事業に ついてはZEBプランナーの関与が必須となっています。 2025年度に当社が受注する設計業務のうち、ZEBが 占める割合を50%以上とすることを目標とします。

当社はZEBに対する知見を活用し、お客様へZEB化 を目指した最適設計の提案および施工を行い、脱炭素 社会の実現に取り組んでまいります。

※エネルギー消費量削減率は、建物用途別の基準値に対するエネルギー消費量削 減率を示す。

当社設計施工のZEB·ZEB Readv認証取得物件(竣工済)







三菱地所 ロジクロス座間小松原 2022年3月竣工 ZEB認証取得 エネルギー消費量削減率 100%*



DPL新横浜II 2022年11月竣工 ZEB Ready認証取得 エネルギー消費量削減率 53%※

大和ハウス工業



シーアールイー ロジスクエア厚木 2023年3月竣工 7FB認証取得 エネルギー消費量削減率 100%*

◆ マテリアルフロー

INPUT

■ 投入エネルギー

脱炭素化に向けた足元の状況としては、2022年度の完成工 事高1億円あたりの原単位排出量は各種のCO2削減策の効果 により、前年度対比13.2%減となっています。ただし作業所・ オフィスにおけるCO2の総排出量は前年度対比7.9%増となっ ています。これは当社の施工工事数の増加等によるものとみら

作業所におけるCO2排出削減策として、当社では省エネ型重 機の導入、アイドリングストップの徹底等に取り組んでいます。

7万㎡

4.348ke

0.721 .

また2021年度より再生エネルギーを活用した電力の使用拡 大も、CO2の排出削減に貢献しています。オフィスにおいては 照明のLED化、省エネ型空調設備への更新を進めています。

廃棄物に関しては、前年度対比で廃棄物総排出量は増加、 リサイクル率は低下しています。これは手持ち工事における解 体工事の増加等の要因によるものとみられます。

当社では引き続きCO2排出や廃棄物の削減に努め、環境 保全に向けた取り組みを進めてまいります。

OUTPUT >>>

■ 副産物



1.37万t-CO2

建設廃棄物 14.3万t (リサイクル 13.9万t)

▶ 建設汚泥 7.8万t ▶ 木くず 0.5万t ▶ コンクリート塊 **4.5万t** ▶ 混合廃棄物 **0.2万t**

▶ アスファルト塊 0.8万t ▶ その他 0.52 万t

■ 主なグリーン調達品

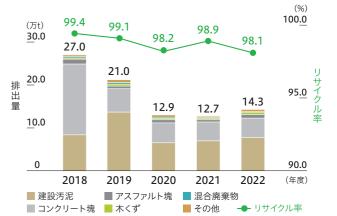
615万kWh

▶ 型鋼(電炉)	8,731 t
▶ 高炉セメント	6,673 t
▶ エコセメント・コンクリート製品	81 t
▶ 透水性舗装	13 m ²
▶ 再生アスファルト合材	2,974 m
▶ スラグ路盤材	3 m²
▶ 再生砕石	21,356 m
▶ 再生砂	2,040 m
▶ 再生安定処理土	472 m
▶ 流動化処理土	2,463 m
▶ 土壌改良(固化)材	1,531 m
▶ 代替型枠(打込み型枠等)	22,159 m ²
▶ 断熱材(グラスウール・ロックウール)	34,597 m
パーティクルボード	2,662 m
▶ 木質系セメント板	1,696 m
▶ エコクロス	2,670 m
▶ 石膏ボード	30,552 m
▶ 岩綿吸音板	733 m ²
▶ 塩ビ系床材	1,360 m
▶ 再生硬質塩ビ管	600 m
▶ 断熱サッシ・ドア	154 枚
▶ LED照明器具	2,393 台

作業所・オフィスのCO2総排出量(万t-CO2)および 施工高1億円あたりのCO2原単位排出量(t-CO2/億円)



建設廃棄物発生量(万t)およびリサイクル率(%)



21